

布施の心

23

[社員募集、観桜会]

長崎工場の従業員募集に当たっては、縁故採用を働きかけてくる人も多かった。

ある町會議員さんは、廃業したばかりの元漁師の方をあからさまに幹部に推薦してきた。

「(一)ん人は課長にしてやつてください」「まずは採用試験の結果を見させてもらえんでしようか」私は、攻勢をかわすのに汗だくだった。

結局、十名くらいの採用予定が十数名になつたが、全員、最初の頃は品質管理などがまつたくできず、製品の半分以上が不良品になつて出荷できない状態が続いた。

たまりかねて第一勧銀の支店長に、「(一)れじやどうしようもないですよ」とぼやくと、「社長、三年は辛抱しないとダメですよ」と慰められた。

たしかに、その後彼らの働きぶりを見ていると、地方の人間は非常に勤勉で、ごまかさないということが次第に分かつてきた。それは、技術レベル云々よりもっと大事なことで、経営に当つては何よりも貴重な資源だ。

そして、最初はあれほど頼りなかつた社員が、努力するところなりの人間になつってきたから不思議だ。

長崎進出は、誰からも歓迎されたが、母だけはずつと心配のしずめだった。

「こっちに来たのはいいけど、大丈夫ね?」

私を見かけると、母はそればかり心配した。

そんな母を喜ばせたいとの思いもあって、私は工場が完成したら花見会を催すことを考えた。工場の前庭に桜を植えて、花の咲く頃、花見会を催す計画だ。

「工場ができたら桜を植えて、花見会をするからね。母さ



2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

本多産業株式会社
【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

んも、皆と一緒に見にきいたらよかたいね」

「そうね。いいね」

しかし残念ながら、母はその後病に伏して、晴れの日を迎えることなく2001年五月、九十二歳でその辛いことの多い人生を閉じた。

花見会は、その後「観桜会」と名付けた。

社員が一丸となって、数日前から準備をして、当日は自分たちも楽しみながら、お客様をお招きしておもてなしをするという趣向だ。場を盛り上げるために、お笑い芸人にも来てもらっている。

コロナ禍で開催できなかつた年を除き毎年欠かさず実施して、現在二十五回を数えている。

地元の方々に加えて、雲仙市長をはじめ県議員の方々や、AGC(旧旭ガラスなど)お世話になっている各社の方々も、毎年お招きしている。

長崎進出に際して知己を得た高田勇知事には何度も見えていたのである。

亡き母も、その日になると見に来て、賑やかな会場の様子を眺めながら「よかつたね」と微笑んでいるように思えてならない。この企画は今後も可能な限り続けてゆきたい。ところで、高田勇元知事が、出会いは全くの偶然だった。それも、奥様とが先だった。

企業誘致の件で羽田から長崎に向かう機中、隣りあわせた上品な女性とちょっとしたきっかけで会話を交わした。

「長崎へはどうなう用で?」

「企業誘致の調印式が県庁でありますので」

「あら、私、高田知事の奥さんとお友だちなのですよ」

「えつ、そうですか」「高田さんの奥さんを紹介してあげましょうか」

本多 克也

（略字も）

文・徳永 耕一